

○吉本議長 通告4番目、14番、市來利恵議員、発言席から一問一答方式で質問願います。

市來利恵議員。

○市來議員 14番、市來利恵です。議長の許可を得ましたので、一般質問を行いたいと思います。

1つ目は、農免道路歩道設置工事について。

農免道路の歩道設置は、多くの市民の方々の願いでありました。歩行者を初め自動車を運転する側にとっても安全をとともに確保するためには、必要な設置事業です。ことし3月に市道山西国分線の中黒地内において歩道設置工事が完成されました。ところが、完成間もなく、新たな水道工事が行われてきています。この状況を見た市民の方から、なぜ、また工事をするのか。歩道設置のときに同時に工事ができなかったのか。これは税金の無駄遣いではないのかとの声が、私どものほうに届いております。道路工事と水道管の移設工事、違う工事であっても、市民の目線から見ればわかりにくく、同じに見えてしまうものです。

そこで、歩道完成後、新たな水道工事が行われているが、当初の計画はどうだったのか、お聞きをしたいと思います。

2つ目は、なぜ、同時に工事が行われなかったのか。市民の皆さんが疑問に思っている点でもございますので、答弁を求めたいと思います。

○吉本議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

上下水道局長。

○濱田上下水道局長 市來議員ご質問の1番目、農免道路歩道設置工事についての1点目、歩道完成後、同じ場所で新たな水道工事が行われているが、当初の計画はなかったのか。2点目のなぜ同時に工事が行われなかったのか。道路工事における市の考え、対応策は。について、一括してお答えいたします。

初めに、工事間の調整につきましては、市内の主要な道路には、上水道、下水道、ガス管、電気、通信など生活に必要な施設が埋設されています。これらを設置するために道路の掘削工事が行われますが、個別の事業者が施設の設置を行えば、工事箇所がふえることから、路上工事を効率よく減らし、交通の円滑化を図るため、道路管理者の国・県・市及び水道・下水・電気・ガスなどの占用者、警察、消防等で構成された道路掘り返し規制連絡協議会で、工事の場所、工程、施工方法などが協議され、掘削工事を抑制する調整を行っており、さらに個別の案件について、それぞれ道路管理者と占用者で詳細に協議を行い、計画的に工事を行っております。

当該道路工事につきましては、歩道設置工事だけでなく、渋滞対策として、市道山西国分線と市道西安上中区の1号線、通称水道道との交差点改良工事で、市道山西国分線に右折レーンを設置し、あわせて北側の歩道未整備の区間を整備するものです。

また、水道工事につきましては、市道山西国分線に埋設されている水道管は、本市の広範囲を供給する幹線であり、昭和48年に施工され、老朽化が進んでいることから優先的に更新を進めており、今回の工事箇所は、市道安上中島線との交差点から住吉川の西側までの区間でございます。

工事期間につきましては、道路工事が平成28年度から29年度の2カ年、水道工事は平成29年度で実施する計画で工事を進めております。

水道管理設場所につきましては、主に北側の歩道の下に計画しており、歩道の路側擁壁工施工後でなければ水道管の埋設ができないため、歩道工事がことし3月末に完成しておりますが、水道工事着手まで、歩行者の安全確保のため、アスファルトで仮舗装としております。

水道工事完了後、本復旧を行う計画でございます。水道工事は今年度6月に着手し、11月末の完成を予定しており、新設の水道管に送水を切りかえた後に、道路工事の南側の路側擁壁工事に着手することとしております。

道路での工事については、市民生活への影響を少しでも軽減できるよう、今後とも道路掘り返し規制連絡協議会等で情報を共有し、より一層連絡調整を密に、計画的に工事を進めるよう努めてまいります。

○吉本議長 再質問を許します。

(なし)

○吉本議長 これで、市來利恵議員の1番目の質問を終わります。

しばらく休憩いたします。

午後1時15分から再開いたします。

休憩 (11時50分)

再開 (13時15分)

○吉本議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

松下 元議員から体調不良のため、欠席の届け出がありましたので、ご了承願います。

一般質問を続けます。

市來利恵議員の2番目の質問を願います。

市來利恵議員。

○市來議員 2つ目の質問に参ります。後期高齢者の検診について。

我が国では、世界的にも例を見ないスピードで高齢化が進展しており、今後も高齢者の大幅な増加が見込まれています。特に、私たちの和歌山県においては、全国よりも早いペースで高齢化が進んでいます。

和歌山県広域連合の被保険者数は、平成26年1月末現在で14万8,983人で、今後、高齢化の進展とともに増加するものと考えられ、平成32年度には16万5,000人を上回ると予想されております。この岩出市においても若い世代が多いとはいえ、65歳以上の方が、平成29年8月現在で1万1,692人いらっしゃいます。

今後、高齢者ができる限り長期間にわたり充実した日常生活を営むことができるよう、高齢者の健康保持増進を推進することは非常に重要であると考えております。

和歌山県後期高齢者医療広域連合の保健実施計画資料では、和歌山県の平均寿命は、男性が79.07年、女性が85.69となっています。和歌山県の健康寿命は、男性が70.41、女性が73.41、全国平均は、男性が70.42、女性が73.62です。健康寿命とは、健康上の問題で、日常生活が制限されることなく生活できる期間と定義されており、生存、死亡と自立、要介護の状況を総合的にあらわした指標となっています。

和歌山県の死因別死亡順位を見ますと、1位が悪性新生物、2位が心疾患、3位が肺炎、4位が脳血管疾患です。岩出市の状況は悪性新生物が県内でもトップとなっています。死因別標準死亡比、全国を100とすれば、男性が100.7、女性は101.9と若干上回っております。また、心疾患や脳血管疾患は100を下回っておりますが、肺炎については、女性が115.7となっております。生活習慣病保有率については80%を超えるという状況があります。早期発見・早期治療が医療費の高騰を抑え、さらには介護との関係性も大きくかかわってきます。

そのためには、健康診査、健診が大きな鍵になってきます。受診率は、平成21年度以降、年々増加しており、平成26年度は受診券を被保険者全員に送付する方法に変更したこともあり、平成25年度に比べて、約2倍に和歌山県内で受診が上昇しているものの、全国と比較すると大変低い水準となっています。市町村別の受診率は最も高いところでは15.2%であり、最も低いところは3.2%と差が見られています。

岩出市においては、平成26年度では被保険者数4,113人に対し、受診者数は468人、率にして11.4%です。この数字が県内を比べて高いか低いかを比べるものではなく、もっと引き上げることが、先ほども言いましたように、早期発見・早期治療につながる。また、健康を維持していく。それが介護生活にもつながっていく。こういう

ものだと考えます。

そこで、75歳以上の方の各種検診率については、どのようになっているのか、具体的に答弁を求めたいと思います。

2つ目は、2016年8月に行われた組合議会において、集団検診について、既に47都道府県のうち41都道府県で、75歳になっても集団検診が受けられるようになっていくことが紹介され、集団検診のメリットについて、市町村によるきめ細かい案内ができることや、検診率向上の取り組み強化、検診費用が安くなり、被保険者の健康状態を市町村自身が把握できるなどを上げ、実施を行うようやりとりがされております。

それに対し、広域連合、当時の事務局長も集団検診について、県内30市町村のうち実施可能もしくは条件つきで可能と答えたのが5市町村であることを報告し、早期の実現を目指し、市町村の協力を得たいと答弁されております。

また、広域連合組合の資料にも、市町村が実施する保健事業との連携を図ります。市町村と連携し健康診査の集団検診を実施と書かれてありました。私も委員会などで指摘をいたしましたが、現在に至ってもまだ集団検診等行われてきておりません。75歳以上の方の集団検診を行わない理由というのはなぜなのか、お答えをいただきたいと思います。

3つ目は、乳がん検診を個別健診だけでなく、集団検診を可能にする考えはどうかであります。これは毎年のように、市民の方から問い合わせがあるのですが、岩出市では75歳以上の方は個別健診、がん検診、個別健診を受診してくださいとなっております。75歳以上は集団検診を行っていないため、個別に受診が必要となりますが、乳がん検診は受診できる医療機関が岩出市にもなく、しかも、医療機関で受ける場合、自力で行くことになってしまいます。自力で行くことが可能であればいいですが、大変難しいとの市民の声をいただいております。こうしたことの乳がん検診、集団で受けるようにということを要望をいたしたいと思いますので、答弁を求めたいと思います。

○吉本議長 ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○山本生活福祉部長 市来議員ご質問、2番目の質問にお答えいたします。

まず1点目、75歳以上の検診率についてでございますが、後期高齢者医療広域連合で実施しております平成28年度後期高齢者健診の受診率は14.8%、また、平成28年度から始まりました歯科健康診査、これは75歳、80歳、85歳、90歳以上の方が対

象となりますが、こちらの受診率が6.4%です。また、保健推進課で行っております各種がん検診については、胃がん検診が9.6%、肺がんが18.3%、大腸がん15.2%、乳がん5.2%、子宮頸がん1.8%です。

次に、2点目、3点目につきましては、一括してお答えいたします。

後期高齢者健診は、後期高齢者医療広域連合を実施主体として、市町村の協力により実施されております。一部の市町村を除き、個別健診のみで実施されており、岩出市におきましても、岩出市内及び周辺には個別健診受診可能な医療機関が多くあること、都合のいい曜日や時間を自分で選択できることなど、個別検診の利便性の観点及び市が実施するがん検診とのセット検診を推進する考えから、個別健診としているものです。

また、75歳以上のがんの集団検診につきましては、那賀医師会医師等で構成されます検診部会におきまして、胃がん検診時にバリウムの誤飲、検査台の旋回に伴う落下などの危険がある。それから、検診バスへの乗降時に転倒の危険がある。受診者の体調が悪くても個別検診であれば、その場で迅速な対応ができる。75歳以上の方は精密検査が必要な方の割合が高く、個別検診のほうが精密検査を受けてもらいやすいなどの意見をいただき、個別検診のみとしたところです。

乳がん検診につきましても受診者の安全等を考慮して、個別検診のみとしましたので、集団検診を実施する考えはございません。

以上です。

○吉本議長 再質問を許します。

市來利恵議員。

○市來議員 各種検診率についてお答えをいただきました。健康で長生きを願い、そして早期発見・早期治療をしていただき、医療費の高騰など抑えられる、またそうしていただきたいという、長生きをしていただくためには、検診を受けてもらいたいというところでは、私は多分市も考えていると思うんです。この検診率を聞いたんですが、では、もっともっと検診率を上げるというような考えというのは考えておられるのか。その対策については、どのような方法をもってこの受診率を引き上げていくのか。そうしたことについての考えというのをまずお聞かせを願いたいと思います。

2点目は、和歌山県の後期高齢者医療広域連合の保健実施事業計画書から読み取る岩出市の実態、岩出市に何が必要なのか、また、どんな取り組みが必要か、そうしたことを検討してきているのかという点でございます。和歌山県が出しているデ

一タヘルス計画では、細かく県内の状況が載っておりますが、その中での岩出市の、今先ほど申し上げました悪性新生物に対する岩出市の状況の数値だったり、また、1人当たり医療費及び生活習慣病保有者率の状況であったり、または入院したときの1,000人当たりのレセプト件数の分だったり、こちらでは岩出市が和歌山県内でもトップで数値が出ているんですが、こうしたのをを用いて、岩出市に何が今求められているのか。

こういう数値から見て、やはり早期発見・早期治療が、この岩出市では必要ではないかと、私はこのように分析をしたんですが、そうした、こういう県の広域の連合から出している分も使いながら、高齢者の健康をどう市としても考えていくのかという点、これについて、今後、対応策上がっているのかという点をお聞きをしたいと思います。

先ほど集団検診を行わない理由として、どこかの医療機関で受診していたり、胃がんだったりすると、転倒・転落のという部分でもお話がございました。確かにおっしゃるとおり、何か急変したときに対応ができないのではないかとということもありますが、しかしながら、医療機関で通っていらっしゃる方は医療機関で行えるという場合もあります。しかし、その逆に医療機関へかかっていない方もたくさんおられます。そんな方々に対しては、私は個別検診と集団検診を選べるという選択肢もあってはいいのではないかと。

検診の受診率を上げる点から見ても、この集団検診の実施はどうか。先ほどは安全に対する部分で言われましたが、しかしながら、やっぱり私は低い数値、健診を初めとしたがん検診も含めて、後期高齢者が受けている検診率というのは非常に低いのではないかと考えていますので、その辺について、もう1回お答えをしていただきたいと思います。

乳がん検診については、医療機関が、どうしても岩出市にないというのが、1つ問題なんです。やはりこの間でも著名人の方々がこうした病気にかかれたときに、やっぱり自分のほうも大丈夫じゃないかという心配で、やっぱり医療機関にかかり、検診を受けたいけども、検診を受けるにしても医療機関まで足を運ばないといけない。ところが、75歳を過ぎているので、なかなか自分の足、力で行くことができないというのがあったんで、例えば、乳がん検診においては集団検診を、それ以上、転倒、ベッドから落ちるといってもございませぬし、そうした部分では、実際にできるのではないかとという点があります。

これについて、ぜひ検討をしていただきたいと思いますので、よろしくお願ひし

たいと思います。

最後になります。人間ドックについても、岩出市としても県の補助を受けてやられていると思います。この人間ドック、健診したとき、助成費用を補助金交付されていると思うんですが、決算を見ますと、人間ドックを後期高齢者の方が受けたのが、たった9件というふうになっておりました。これについても助成を活用して、もっともっと人間ドックに受けていただく、人間ドックもあるよという形を知らせていただきたいというのがあるんです。というのは、岩出市人間ドック、後期高齢者で調べるんです、ネット上で。ところが、ほとんど出てきません。

そうした連絡、受けれるという形というのは、どのような形になっているのか、その辺について、1点お聞きをしたいと思います。

以上です。

○吉本議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○山本生活福祉部長 市来議員の再質問にお答えいたします。

まず、受診率の引き上げ、それから早期発見・早期治療、がんの死亡率、岩出市高いということで、それ大事ではないかという、そういう趣旨のご質問だったかと思えます。

早期発見・早期治療につなげるためには、がん検診の受診率を上げていく。この2つは関連性あるというところであります。がんの検診の受診率上げていく、これは75歳以上のみならず、対象となっている年代の方全てにおいて重要なことや思っております。

その広報というか、受診率を上げるための取り組みというところになるんですけども、例えば、広報であるとか、ウェブサイトであるとか、そのようなところでの、もちろん広報もさせていただいているところでありますし、先般行いました市政懇談会におきまして、特に、がん検診と特定健診に関しましては、受診をお願いしたい。特に、がん検診に関しては、やはり検診で見つかるがんのほうが早期に見つかる可能性が高いというところのデータなんかもお示した上で、市民の皆さんにも受診を促すような取り組みをしているところです。

あと、この検診なんですが、言うまでもなく、検診をするということは、検診することの利益が不利益を上回るというところで検診を行うということになるんですけども、この場合、利益と申しますと、がん検診であるならば、がんの死亡率を下げる効果がある、あるいは生活習慣病であるならば、早期発見で、早期治療につな

げるといような、そういう利益、その一方で、検診にも不利益というのをございまして、検診で、例えば、放射線を浴びることによる人体の影響とか、胃がん検診であれば、バリウムを飲んだことで体調の変化が出てくるというよう、そういういろいろな不利益な部分も上げられます。

高齢者に関しては、特に、集団検診においては、いろいろなリスクが高まるという懸念を持っておりました。検診において危なかった、バスの段を踏み外す、やはりちょっと体力的な問題があつて、ちょっと転びやすいとか、そういう部分で、やはりその現場の保健師からも正式な統計としてはおりませんが、やはりちょっとひやっとするような事例はふえておるといような報告、私個人も、先般、自分の検診のときに、バスから足踏み外しそうになって、年を感じることもあったんで、その報告もうなずけるものもあるのかなと考えております。

やはり、そういう意味では、医療機関で受診していただくほうが、体調が悪くなった際、迅速かつ適切な対応ができるというような部分、利便性というところで、そこは少し低下するかもしれませんが、この件で、特に、高齢者の検診で我々が最も重視するのは安全面であると考えております。そういうことで、やはり75歳以上の検診に関しましては、個別検診で対応していきたいというふうに、乳がんも含めて考えております。

それから、あと、人間ドックに関しましては、担当課長のほうより答弁させます。以上です。

○吉本議長 保険年金課長。

○井辺保険年金課長 市来議員の再質問にお答えいたします。

後期高齢者の人間ドックが少ないのではないかと、また、啓発をもっと広げるべきではないかということについてであります。後期高齢者人間ドックの定員につきましては、和歌山県後期高齢者医療広域連合からの割り当てにより実施をしておる関係で、ご指摘の平成28年度については、そういう形となったものでございます。

今後、この枠を広げてもらえるように、広域連合に対して働きかけをしていく方針でございます。

○吉本議長 再々質問を許します。

(なし)

○吉本議長 これで、市来利恵議員の2番目の質問を終わります。

引き続きまして、3番目の質問を願います。

市来利恵議員。

○市来議員 3番目は、デマンドタクシー（乗り合いタクシー）についてであります。

デマンドタクシーの質問については、昨年の12月議会でも取り上げました。今や交通弱者という問題は、過疎の地域だけの問題ではありません。私は、いつまでも住み続けられる岩出市をつくるためには、必要な施策であると考えています。今まで車があるから困らなかったという方、また、息子夫婦と住んでいて移動手段に困っていない方、そんな市民の方々も高齢で車自体を運転しない、また、同居する方も高齢化してきている、こうした問題が地域によっては出てきております。

また、岩出市も人口の増加が進み、核家族世帯が増加しています。高齢者社会を迎えるに当たって、この岩出市としても交通弱者、買い物難民などをなくす取り組み、つくらない取り組みが必要不可欠となってまいります。

デマンドタクシーについて、前回の答弁では導入の考えはないと答えておりますが、高齢者等の交通弱者の日常移動手段について、巡回バスの運用だけで、今後も補えると考えているのか、お聞きをいたします。

2つ目は、岩出市巡回バスは、市役所を初め公共施設、岩出駅、スーパー等商業施設付近にバス停を設置し、運行しています。さまざまなニーズがあり、巡回バスに対し要望もたくさん出されていると思いますが、高齢者が日常生活の中で、一体どの時間、どこに行きたいのか、外出先はどこが多いのか、具体的な把握については知っているのか、このことについてお聞きをしたいと思います。また、把握をしているのであれば、それについてお答えをいただきたいと思っております。

3点目は、デマンドタクシー1人当たりの予想コストについての試算はどうかであります。

前回の答弁では、1人当たりの予想コスト問題を上げました。これについて試算はどうか、お聞きをいたします。

○吉本議長 ただいまの3番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○藤平総務部長 通告に従い、お答えをいたします。

デマンドタクシーについての1点目についてですが、岩出市巡回バスにつきましては、高齢者等交通弱者の日常の移動手段を確保することを目的に運行しており、皆様からご意見、ご要望をいただき、さらなる利便性の向上に取り組んでいるところで、現在のコースや時刻等は、皆様からご意見、ご要望をいただいた蓄積のもと、でき上がっているものです。

ご質問の巡回バスだけで補えるのかにつきましては、路線バスやタクシーと連携

することにより利便性の向上が図られるものと考えております。

なお、重度障害者の方には、タクシー料金の一部を助成する制度がございます。

次に、2点目の高齢者の日常生活での外出先、主な場所の把握はどうかについてですが、平成26年度に実施した巡回バスに関するアンケート結果では、買い物、市役所、金融機関、通院等で巡回バスを利用されている方が多いとの回答をいただいております。

3点目のデマンドタクシー1人当たりの予想コストについてですが、平成28年第4回定例会でも答弁させていただいたとおり、デマンドタクシーの導入において、利用者数や一般タクシーとの差別化など種々の問題点があり、現時点では、デマンドタクシーの導入は考えていないことから試算は行っておりません。

以上でございます。

○吉本議長 再質問を許します。

市來利恵議員。

○市來議員 まず、市長にお聞きをしたいと思います。

高齢ドライバーによる事故が相次ぐ中、市長は、ことし6月にみずから岩出署に出向いて、運転免許証を自主返納しています。新聞報道では、市長は踏ん切りがつかない感じ、高齢者が自主返納するきっかけになれば、万一事故を起こしたら大変だと思い、自主返納した。岩出市はコンパクトシティで、巡回バスなどもあり、そんなに支障はないのではと記事が掲載されておりました。このニュースは非常に市民にも大きな影響を与えるものと思っています。

私も、たくさんの市民の方々から市長が免許証を返納したこと、会話の中で話題に上がることが多数ありました。市長は、岩出市はコンパクトシティで、巡回バスがあるから必要ではないとお話をされておりますが、実際に免許証を返納したからこそ見えてくる交通機関への対策が実感できるのではないかと考えています。

本当に、今の巡回バスが利用されやすいものとなっているのか。また、今後の交通網の充実、交通弱者対策、市長としてどのように考えるのか、まず1点目、お聞きをしたいと思います。

次に、デマンドタクシーの1人当たりの予想コストについての試算については、考えていないから試算の部分についてはお答えをいただきませんでした。私は通告制をとっていて、私は1人当たりのコストを昨年12月に当局が答弁になっているので、幾らなのかというのを答えていただこうかと思って、今回の質問の上に上げさせていただいているんです。ところが、デマンドタクシー自身を考えたいから試算

を行っていないのかどうかなんですけどね、その辺についてお答えをしていただきたいと思います。

また、一般タクシーとすみ分けの話も出ました。私は、この7月に奈良県の香芝市に行ってまいりました。皆さんがご心配するタクシーのすみ分けについてもお聞きをしたところ、当然、デマンドタクシーと、向こうは公共バスを走らせておりますが、その中でデマンドタクシーをやるに当たって、当然、岩出市にもあるように、公共交通検討委員会という中には、当然、タクシー会社も入っていらっしゃる。その中で、このデマンドタクシーについてのいろいろなご意見を求めたところ、タクシー会社からの話というのは全く出てこなかったということをおっしゃっています。

全国でもデマンドタクシーが実施をされる中で、そうした一般タクシーとのすみ分けについての問題点というのを上げられた自治体というのは、私はちょっと今のところ聞いたことがありません。

例えば、そういう話が出たのであれば、自治体として検討、また、そういったデマンドタクシー自身、実施されてきている地域というのは出てこなかったのではないかと思います。

また、前回では、福祉タクシーとのすみ分け等々の話もされました。そもそも福祉タクシーというのは、身体障害者や介護が必要な方のタクシーであり、こういう私たちが言う一般の市民の方々の交通弱者に対するデマンドタクシーとは全く異なるものなので、これについても問題はございません。

奈良県の香芝市を紹介します。香芝市は、人口7万8,722人、面積が24.26です。現在、公共バスとデマンドタクシーを併用した事業を行っています。デマンドタクシーを導入するまでは、岩出市と同じように、市役所や福祉センターなどを中心とした無料バスを走らせていました。しかし、利用者から公共バスについて、さまざまな意見があり、新たな公共交通について調査を開始しています。平成23年4月にはアンケート調査を行い、バスに対する意見の集約、先ほど答弁ありましたように、岩出市と同じような形での集約方法をとっていると思います。

自由に乗りおりしたいなどの要望、また、便が少ない、行きたいところに行けない、こうしたような要望が多数あり、それらを踏まえ、新たな公共交通についての検討を行い、問題点と課題を整理することから始められております。いろんな角度、いろんな視点から検討され、協議を重ねながら、ここではデマンドタクシーを公共バスとともに実施するという形をとられました。

香芝市の基本方針としては、高齢者等の日常生活に必要な移動手段の確保、サー

バスの水準として、自宅等からなるべく近い距離での公共交通を利用することができる。行きたいところまでスムーズに行くことができるシステム、また、地域の特性に応じた手法選択による均等な移動機会の確保、そして、行きたいという気持ちがありながら、行くことを諦めている人の移動を支援する。居住地域にかかわらず、行きたいところへ移動する機会が公平に得られるサービスを目指す。

サービスを向上させつつ、行政負担を抑えて事業の持続性を確保、行政コストを現状か、それに以下にすることを前提とし、提供するサービスに応じた適切な利用者負担を求める。こうしたいろいろなことを検討した結果、市内で全域でデマンド交通を導入を決定しております。

もちろん導入後も3年に1度はアンケート調査を行って、常に分析を行っています。どこからどのように乗られるのか、どの時間帯に多いのか、そうした実態をしっかりと入れながら改善を重ねて運行している。また、バスについても同じです。いろいろな状況のアンケート調査をしっかりと行っているが、市民ニーズにどういうふうに対応していくのか、ともにそのような形で行われておりました。

アンケート調査をもとに、こうした分析を行って、市民目線、また高齢者の生活環境を視野に入れている点、こうした行政サービスを公平に得られるように目指す点というのは、学べる点ではないでしょうか。

市民のニーズはどこにあるのか、先ほどお答えになっていただきました。市役所、病院、買い物というふうに言われています。ただ、私はもっともっとこれを細かく分析するというのが非常に必要ではないか。例えば、バスにおいてはどの路線を利用したのか。乗車した停留所、おりるところの停留所、きょうの目的、またバスを利用した目的、どのぐらい頻度で利用されているのか。バスについての満足度、コミュニティバスについての往復利用はどうか。また、どうした時間帯にやっているのか、細かいことをやりながら、高齢化地域というのは、岩出市も当然どこの地域が高齢化が進んでいるかというのは、すごく数字でわかると思うんです。

そうしたところに、どういった願いがあったり、どういったニーズが横たわっているのかというのをしっかりつかんだ上で、市がいうコミュニティバスの充実を上げるのであれば、それも含めた上で、ちゃんと分析を行いながら、しっかりと市民の声に応えられるようにやっていく。また、デマンドが本当に必要ではないのかという時点についても、しっかりとこの点をやりながら、アンケート調査などを行いながら見きわめていく、これが必要ではないかと考えています。

当然、岩出市は、今、先ほど1人当たりの分析もやらないから調べない、答えな

いというのではなく、本当にそれがお金の問題であるというのであれば、1人当たり幾らだったのかというのを答えられるはずだと思います。それについて、しっかりとご答弁を求めたいと思います。

ちなみに、香芝市のほうでは、公共バスに4,200万を使っています、デマンドタクシーには、1回、ここでは200円の自己負担が用いられていますが、4,000万近くで行われています。持ち出しですね。岩出市の場合は、巡回バスに1,446万円、大阪方面バス、コミュニティバス、それぞれ合わせても2,350万ぐらいなんです。それで合わせて、岩出市は3,800万、持ち出しの分がふえるじゃないかという点もあるけども、地域の実態に即した方法でやる方法というのは幾らでもあると思います、いろんな自治体がやっているんですから。

まずはしっかりと市民にどういったニーズがあるのかというのをきちんと調べる。岩出市が本当にデマンドが必要であるのかないのかというのをそこから考えてもいいのではないかと。やると考えてないから、やる方向を持ってないからやらないのではなく、本当に市民がどのように、この岩出市に住み続けられるために、どのような形で思っておられるのかというのをしっかりつかむ必要があると思うので、それについてお答えをいただきたいと思います。

○吉本議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

市長。

○中芝市長 市来議員の再質問にお答えをいたします。

私のこと、6月14日、53年持ってた免許証を返納いたしてございます。その大きな要因は何かと申しますと、岩出警察署管内で、平成28年中に発生した事故件数の35%が高齢者がかかわっていたということ、それから、死亡者が64%にも上っていたこと、万が一のときは、あとの人生に大きな変化が出てくるということでありませう。

免許証を返納したらどうやということになりますと、やはり多少不便さは感じますが、その中で自分自身で努力、それから、いろいろと解決していかねばならないなと思っています。

その1つが、人との交流、交友関係を大きく広め、特に、若い人たちとの交流を深め、外出時には乗せていただくという手段をとりたいなと思っています。

以上です。

○吉本議長 総務部長。

○藤平総務部長 市来議員の再質問にお答えをいたします。

デマンドタクシーの導入についてですけれども、バスの役割分担あるいはタクシーとのすみ分け、福祉移送サービスとの整合、この話、前回の12月の議会のときにもさせていただいて、今回もさせていただきました。また、市来議員からも再質問の中へ出てきております。ただ、小規模な需要に対するコスト面に、個々のニーズに対応する利便性をどこまで追求するかという考えも必要でございます。

我々、皆さんに納めていただいた大切な税金を使い、行政を進めております。行政を進めるに当たっては、それぞれ施策の利点と欠点、この両面を検討する必要があります。このことからデマンドタクシーの導入については、その考えはないということでございます。そういうことで試算も行っていないということです。

ただ、今後、高齢化や高齢者の運転免許証返納等による交通弱者の増加に対応するため、他の自治体のデマンドタクシーの取り組み状況の情報収集すると、前回も申させていただきました。これからもさせていただきます。ニーズ調査についても研究はさせていただきます。

以上でございます。

○吉本議長 再々質問を許します。

(なし)

○吉本議長 これで、市来利恵議員の3番目の質問を終わります。

以上で、市来利恵議員の一般質問を終わります。